

平成28年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立海津特別支援学校

学校番号

109

自己評価

<p>学校教育目標</p>	<p>児童生徒がもつ可能性を最大限に伸ばすことができるように                  (1) 児童生徒一人一人の障がいの状況や、発達段階等に応じたきめ細かい教育を行う。                  (2) 仲間と共にくましく、明るく生きる力を育む。                  (3) 一人一人が社会自立に必要な基礎的・基本的な知識・技能を培う。</p>
<p>評価する領域・分野</p>	<p>◇「自立」に向けた力を育成するための指導・支援の在り方</p>
<p>現状及びアンケートの結果分析等</p>	<p>上記の領域・分野は、全校の研究テーマで、継続して全校で実践研究を進めているところである。(今年度は、4年計画の3年目である。)                  これに関する保護者等を対象とするアンケート項目「学校の先生は、児童生徒の実態を的確に捉えている。」では、「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の合計が昨年の85%から84%になり、「学校の先生は、専門的知識が豊かで教師としての資質を身に付けている。」では、「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の合計が昨年の85%から81%になり、改善にまでは至っていない。これまでも、実践研究を通して、日々、専門性を高める努力は怠っていないが、保護者からは、さらなる教員の専門性や資質の向上、指導力が、強く求められ、年々、評価も厳しくなっているという結果となった。</p>
<p>今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立に向けた力を育成するための指導・支援を工夫する。</li> <li>・各部で自立に向けて児童生徒に付けたい力を明確にし、部内又は部を超えた指導・支援の実践交流を積み重ね、各部で明確にした自立に向けて付けたい力の系統性を教師間で共通理解し、児童生徒の自立に向けた力を育む。</li> </ul>
<p>重点目標を達成するための校内組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部を超えた実践交流をし、日々の指導につなげていけるように縦割りにグルーピングしグループ研究を行う。</li> <li>・部別研究において、各単元・授業のねらいを明確化し、ねらいを迫るための手立ての検討やその有効性を検証する。</li> <li>・全校研究において、各部の授業実践を参観し、授業のねらいや指導・支援の方法について深める。</li> </ul>
<p>目標の達成に必要な具体的取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活単元学習の単元計画を作成し、指導内容表をもとに検討することで、よりよい単元の仕組みや進め方を共通理解する。</li> <li>・生活単元学習の単元指導内容について「かかわる力」「生活する力」「働く力」「楽しむ力」の観点で指導内容分析表を作成し、それをもとに年間の単元設定を見直し、系統性を整理していく。</li> <li>・各部の研究授業をビデオで撮影し、改めて全校で参観することで、各学部の指導の様子や単元内容を共通理解する。</li> <li>・部を超えた情報交換をし、小中高の連携や系統性について考える。</li> </ul>
<p>達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の満足度や充実感の把握</li> <li>・保護者からの意見・感想</li> <li>・学校評議員等からの意見</li> <li>・部内における授業の教員相互の事後評価</li> <li>・平成29年度年間指導計画案、単元計画一覧表案の完成</li> </ul>

取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月2回、12月1回の計3回、全校公開授業を行い、事前研究会及び事後研究会を実施した。事後研究会では、全教員が縦割りで6つのグループに分かれ、付箋を活用したKJ法で小グループ討議を行った。会の最後には各グループで出た意見を要約し全員で聞いたり、後日、討議のまとめを全教員で回覧したりして全校で共通理解を図った。</li> <li>・部別研究会においては、生活単元学習の「単元指導計画表」「生活単元学習における指導内容表」を活用し、7月から12月の生活単元学習について、各部で単元計画の検討、研究授業の実施、振り返りを行った。その後授業集団ごとに「指導内容分析表」を作成し年間の単元設定を見直し、系統性を整理した。</li> <li>・縦割りグループ研究では、全教員を5つのグループに分け、年間4回行った。「かかわる力」「生活する力」「働く力」「楽しむ力」をテーマに討議を深めた。</li> </ul>
評価の視点	評価
<p>①生活単元学習において、よりよい単元の仕組みや進め方を共通理解するとともに、年間の単元設定を見直し、系統性を整理していくことができたか。</p> <p>②部別研究会を通して、各部での単元計画の作成及び検討、研究授業の実施、振り返りを行い、自立に向けた力を育成するための指導・支援を工夫することができたか。</p> <p>③縦割りグループ研究を通して、各部で明確にした自立に向けて付けたい力の系統性を教師間で共通理解することができたか。</p>	<p>Ⓐ B C D</p> <p>A Ⓑ C D</p> <p>A Ⓑ C D</p>
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元指導計画表の作成や公開授業を通して、教員間で意見を交わしながら互いに学びあうことができ、授業の中で大切にしたいことの共通理解が進み、指導・支援の在り方について深めることができた。</li> <li>○「指導内容分析表」を作成することで、指導内容の系統性を整理することができた。</li> <li>●過剰支援になっていないか、TTは有効に行われているか等、適切な支援方法に関する教員間の共通理解や見当がさらに必要である。</li> <li>●研究で確認できたことを今後も継続して行っていくために、教員間で授業を見合い、活発に意見交流できる体制づくりが必要である。</li> </ul>	A Ⓑ C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの研究で確認できたことや整理できたことを意識した授業づくりを全員で行っていく。</li> <li>・教員間で授業を見合い、活発に意見交流できる体制を整え、授業目標に即した適切な支援方法についてさらに検討し、どの授業にも生かせるように実践する。</li> </ul>

### 学校関係者評価 (平成29年2月27日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部から高等部までの授業を参観して、明るい雰囲気でもとてもよかった。教員の指導が熱心で児童生徒も落ち着いた態度で授業に臨んでいた。</li> <li>・幅広い児童生徒に対して教員はこまめに対応していて、素晴らしいと感じた。</li> <li>・教職員に関しては、「保護者等の意見を反映」という評価が昨年からみて上がってきた。しかし、「専門性」「信頼」に関しては、昨年度よりも、やや評価が低くなっているため、誠実な態度で更なる研修、研鑽に励んでいきたい。</li> </ul>
---